

ビジネス戦略を反映したビジネスプロセス構築と IT 要求開発

講師	渡辺 和宣 特定非営利活動法人 バリューチェーンプロセス協議会 理事長
日程	11月19日(水)、20日(木) 12月18日(木)、19日(金) 1月15日(木)、16日(金) 各回 10時~17時
コース概要	<p>IT への要求は全てビジネスプロセスから発生します。従来の IT 化は基幹系業務のような定型的プロセスを対象としてきましたが、商品開発、営業や顧客接点のような非定型的な意思決定系プロセスは IT 化から取り残されてきました。</p> <p>当コースでは、定型/非定型を区別せずに、ビジネスプロセスの調査・記述、課題分析と設計、IT 要求開発(業務要件の定義)を担当できる、いわば「超上流 SE」を短期間で育成します。このため、単なる知識の教育ではなく、「ある結果を得るのに最も効率のよい技法・手法・プロセス」としてのプラクティスの訓練を中心に行います。</p> <p>当コースによって、従来の定型だけでなく意思決定系や顧客接点を含めたビジネスプロセスの改善が可能となります。ここでのビジネスプロセス記述は精緻な間接的な業務観察法であり、これから IT 要求開発の属人的でないプラクティスを実施できます。また、業務参照モデルからの種々の質問や図示によるファシリテーション手法の習得によって、経験を問わず若年 SE でも超上流を担当できるようになります。</p>
研修目次	<p>第1日目 ビジネスモデルと戦略、ビジネスアナリストの役割、方法論 GUTSY-4 の概要</p> <p>第2日目 企業全体の業務と業務参照モデル、コミュニケーションと論理思考</p> <p>第3日目 フェーズⅢ：事業概要の把握、現状プロセスの調査・記述</p> <p>第4日目 フェーズⅢ：プロセス分析と設計</p> <p><以上、BABOK でいうソリューション要求の定義></p> <p>第5日目 フェーズⅢ：ビジネスプロセスと IT 要求の関係 プロセスから概要レベル IT 要求の引き出しと優先順位付け</p> <p>第6日目 フェーズⅢ：RFP 作成と IT ソリューション選定 フェーズⅣ：ルール等の、IT 構築（非定型） 概要レベルの IT 要求の詳細化（定型）、IT システム分析</p> <p><以上、BABOK でいうソリューション要求（IT）の定義></p>
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・頭が柔らかな SE（年齢や経験は問いません） ・コミュニケーションが苦手でないこと、苦手でも努力すること

前提知識／条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ SE 経験（システム分析、またはシステム概要設計） ・ 抽象化や構造化が得意であれば、SE 経験も問いません
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネスプロセスの重要性を他人に説得できる。 ・ ビジネスプロセスの調査記述・分析・設計、IT 要求開発を一人で担当できて、他人にも教えられる。 ・ ビジネスプロセスに付随する広義のビジネスルール、単なるデータではない情報エンティティなどの定義を担当できる。
価格（税込）	JISA 会員 15 万円 JISA 会員外 45 万円
開催人員	8 名以上 20 名まで
注意事項	研修時間中は、スマートフォンや携帯電話の電源を落として頂きます。

ビジネスアナリストや上流 SE に必要な共通業務知識

講師	渡辺 和宣 特定非営利活動法人 バリューチェーンプロセス協議会 理事長
日程	2月～3月で開講 <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング・販売の概要 2月12日(木)～13日(金) ・商品企画・開発・設計の概要 2月25日(水)～26日(木) ・購買・調達・製造の概要 3月5日(木)～6日(金) ・受注・出荷・返品 of 概要 3月12日(木)～13日(金)
コース概要	<p>ビジネスアナリスト(BA)や SE は、その都度、業界・業種・業態が異なる顧客の業務に対応しなければなりません。しかし、業界・業種・業態に関わらず、業務機能には8割以上の共通性があります。</p> <p>IT 開発を通じた経験だけでは、まだら模様の業務知識しか習得できません。経験が IT 系のビジネスプロセスに限定されて、その前後の人間系プロセスが欠如しているからです。また、共通的な業務を理解できていないと、相手企業の固有の業務特性に振り回されてしまいます。そして、経験していない業務には全くお手上げです。</p> <p>一方、今までの「業務知識研修」は、業務の概念や用語という言葉だけで、BA や SE の仕事の対象である業務の機能（ビジネスプロセス）ではありません。したがって、その研修内容をどの場面で利用できるかが定かではなく、そして、一週間もすれば忘れてしまいます。</p> <p>今回の業務研修では、業務ごとのコンテンツによって、必要な業務用語やビジネスプロセスの機能を学び、これによるプロセスモデリングの演習を行うことで、共通的な業務知識を学べます。</p> <p>(業務ごとのコース内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 業界・業種・業態と共通業務の関係 2. コンテンツには、標準的なプロセスフロー、フロー解説、個別プロセスの機能、業務ルール、用語説明を含む 3. コンテンツによる業務用語の理解 4. コンテンツによる業務概要（フロー、プロセス機能、代表的な業務ルール）の理解 5. コンテンツによる業務詳細の理解 6. コンテンツを利用した現状プロセスの調査・記述の演習
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・頭が柔らかな SE（年齢や経験は問いません） ・コミュニケーションが苦手でないこと
前提知識／条件	<ul style="list-style-type: none"> ・SE 経験（システム分析、またはシステム概要設計） ・抽象化や構造化が得意であれば、SE 経験も問いません
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツ（プロセス機能、用語）によって、自社や顧客の業務部

	<p>門と会話できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が IT 開発を経験した業務では、当該業務の全体を理解することで、新たな提案ができる ・自分が未経験の業務であっても、業務部門に質問・ファシリテーションして、業務課題の抽出やビジネスプロセスの見える化ができる
価格（税込）	各コース JISA 会員 6 万円 JISA 会員外 18 万円
開催人員	5 名以上 30 名まで
注意事項	研修時間中は、スマートフォンや携帯電話の電源を落として頂きます。

（コースの特長）

1. BA や SE の仕事の対象となるビジネスプロセスを中心に業務を学べる。
2. 自分が IT 開発を経験した業務については、周辺の人間系を含めて本来の業務機能をスケ・モレなく理解できる。
3. 自分が未経験の業務については、コンテンツによって網羅的に学ぶことで、計画的に将来の準備ができる。
4. 共通的な業務知識を習得すれば、異なる業界・業種・業態を担当する場合に、それ特有の特性だけを意識することで対応できる。それ以上は、相手企業の固有の業務特性なので、一般的な教育は不可能。
5. コンテンツが手元にあるため、研修後に一旦は忘れても、必要な場面でコンテンツを取り出して思い出せるという、持続的効果を得られる。

（受講者の声）

- ・私のように業務経験の浅い人材でも、一人前に客前で話すことを後押ししてくれるコンテンツであることがわかり、非常に興味が湧きました。
- ・コンテンツを仮説とした業務の把握への有用性を実感した。
- ・コンテンツの利用で、プロセスの粒度の統一と洩れのないプロセスフローを作成できた。
- ・保険事故処理は、返品プロセスを利用して記述できることが分かった。
- ・リース業のビジネスプロセスは、リース物件の環境対応という大きなテーマがあり、金融業よりも製造業の方がフィットしていることが分かった。

ビジネスモデル創造ワークショップ

講師	宗 雅彦 IIBA BABOK バージョン 3 開発リーダー 株式会社サイクス 代表取締役・主席コンサルタント
日程	2月3日(火)~2月5日(木) 10時~17時 ※本コースは11月13日(木)15時より体験セミナーを開催します。 本コースの有用性を実感していただき、コースにご参加ください。
コース概要	<p>ICT利用の目的が業務効率化を超えて「収益を向上するためにスマホを使ってわが社の営業プロセスを革新したい」というようにビジネスモデル創造を伴う経営課題解決のためのICT利用に変わってきました。また農業経営改革のように新たなビジネス開発やビジネス変革にあたってICTを活用したビジネスモデル創造に取り組む事例もあります。</p> <p>このコースは、このようなニーズに応じて、ICT活用によるビジネスモデル創造をけん引する必要があるICT技術者・SEのためのコースです。ビジネスモデルや顧客経験価値のデザインから、それらを実現するためのICTを結合したビジネスプロセスのデザインまでのプロセスとテクニックを、ケーススタディを使ったディスカッションおよび演習を通して学びます。</p> <p>ビジネス価値と顧客経験価値を変革するために、システムズエンジニアリングプロセスにデザイン思考を融合させた、イノベーション創造型の創造的問題解決プロセスを応用します。</p>
研修目次	<p>ケーススタディを使ったディスカッションおよび演習を通じた Learning by doing によるワークショップです。ただし4は講義による座学とします。</p> <ol style="list-style-type: none">1. ビジネスモデル仮説をデザインする ステークホルダーの重要な関心事からビジネス上の問題および目標を明確にする 願わしい目標の水準はなにか、どのような方針でそれを達成するのか、ビジネスモデル仮説をデザインする2. ビジネスモデル仮説が求める独自の価値提案をデザインする 顧客の苦痛・不安・不満・期待・要望を理解あるいは共感・洞察する これらを解決する価値提案(ソリューションのコンセプト)をデザインする3. 価値提案からICTを結合したビジネスプロセスをソリューションとしてデザインする4. ICT上をフローするデジタルデータを分析(ビジネスアナリティクス・ビッグデータ解析)し、ソリューションを成長・発展させる。

対象	ICT利用によるビジネスモデル創造をけん引する必要がある ICT 技術者・SE
前提知識／条件	—
目標	ICT利用によるビジネスモデル創造をけん引する必要がある ICT 技術者・SE が、ビジネスモデル、顧客経験価値、ICT を結合したビジネスプロセスをデザインするためのプロセスとテクニックを、ケーススタディを使ったディスカッションおよび演習によるワークショップで理解する。さらに講義をとおしてビジネスアナリティクス(ビッグデータ)の機能、意義、今後の可能性について理解する。
価格 (税込)	JISA 会員 10 万円 JISA 会員外 30 万円
開催人員	8 名以上 20 名まで
注意事項	

ビジネスモデル創造ワークショップ紹介セミナー(無料)

講師	宗 雅彦 IIBA BABOK バージョン 3 開発リーダー 株式会社サイクス 代表取締役・主席コンサルタント
日程	11月13日(木) 15時~17時
コース概要	<p>「ビジネスモデル創造ワークショップ(2/3,4,5)」のエッセンスを紹介する無料セミナーです。</p> <p>-----</p> <p><<<以下「ビジネスモデル創造ワークショップ(2/3,4,5 開催)のコース概要>>></p> <p>ICT利用の目的が業務効率化を超えて「収益を向上するためにスマホを使ってわが社の営業プロセスを革新したい」というようにビジネスモデル創造を伴う経営課題解決のためのICT利用に変わってきました。また農業経営改革のように新たなビジネス開発やビジネス変革にあたってICTを活用したビジネスモデル創造に取り組む事例もあります。</p> <p>このコースは、このようなニーズに応じて、ICT活用によるビジネスモデル創造をけん引する必要があるICT技術者・SEのためのコースです。ビジネスモデルや顧客経験価値のデザインから、それらを実現するためのICTを結合したビジネスプロセスのデザインまでのプロセスとテクニックを、ケーススタディを使ったディスカッションおよび演習を通して学びます。</p> <p>ビジネス価値と顧客経験価値を変革するために、システムズエンジニアリングプロセスにデザイン思考を融合させた、イノベーション創造型の創造的問題解決プロセスを応用します。</p>
研修目次	<p>下記内容について解説します。</p> <ul style="list-style-type: none">ICT サービスビジネスへのニーズのトレンド： ICT利用は業務効率化を超えてビジネスモデル創造型へビジネスモデル創造のためのプロセスとテクニック： 創造的問題解決プロセスとテクニック ～機能・効用・利用法 ※エッセンスを紹介します。「ビジネスモデル創造ワークショップ」のカリキュラム
対象	ICT利用によるビジネスモデル創造をけん引する必要があるICT技術者・SE
前提知識/条件	—
目標	<p>下記内容について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">ICT サービスビジネスへのニーズのトレンド

	<ul style="list-style-type: none">• ビジネスモデル創造のためのプロセスとテクニック： 機能・効用・利用方法（エッセンス）• 「ビジネスモデル創造ワークショップ」のカリキュラム
価格（税込）	無料
開催人員	25名
注意事項	

BPMS による業務プロセス実装ワークショップ

講師	内山 雄太朗 ペガジャパン株式会社 ソリューションコンサルティング部長
日程	12月4日(木)～5日(金) 10時～17時
コース概要	<p>多くの日本企業では、ITシステムが業務機能単位で縦割りに構築され、ITシステム横断で業務プロセスを遂行するのは未だ人間の役割となっています。このため、ITシステム間や部門間のタスクの受け渡しを依頼書やメール等のアナログな方法で実施したり、業務プロセスの遂行を熟練者のスキルに依存したりするのが実状で、業務負荷の増大や業務品質の低下要因となっています。</p> <p>このような状況を打破すべく、企業内の各ITシステムや部門間の橋渡しを担い、業務プロセスを的確に実行・管理していくためのデジタル変革の基盤として、BPMスイート(BPMS)が昨今注目を集めています。BPMSは、業務プロセスの分析・整理に留まらず、業務プロセスのシステム化、運用、継続的改善までも守備範囲とします。昨今はクラウド・サービスとして提供され、業務改善にスピーディに取り組めるものも増えてきました。また、ビジネス・アナリストのように、システム開発を専門としていない職種の方が主体となって業務プロセスのシステム化を遂行できる点も特徴です。</p> <p>当コースでは、ガートナー社等の第三者機関から高評価を得ている商用BPMS製品を用い、架空の業務をプロセス指向で整理した後、その業務を実際にシステム化していく一連の流れを、ハンズオン形式で演習します。</p>
研修目次	<ol style="list-style-type: none">1. BPMSの概要 … BPMSの提供機能と、ITシステムにどのような変革をもたらすかを学びます2. プロセスの作成 … 業務の流れを、ケース定義およびプロセス・フロー定義として記述します3. データ要素の作成 … BPMS内で取り扱うデータモデルを定義します4. ユーザー・インタフェースの作成 … 業務プロセスの各ステップで利用する画面を作成します5. データ・アクセス定義の作成 … DBにアクセスしマスター・データを照会します6. ビジネス・ルールの作成 … チェックロジックや計算ロジック等のビジネス・ルールを記述します7. 自動ドキュメンテーション … BPMSのリポジトリ内に登録された情報をドキュメントとして出力します

	* 演習では、米国 Pegasystems Inc. 社の PegaRULES Process Commander を利用します。
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネス・アナリストの方で、下流工程（システム・デザインおよび実装）の理解を深めたいとお考えの方 ・ システム・エンジニアの方で、上流工程（業務プロセスや要件の整理）の理解を深めたいとお考えの方
前提知識／条件	<p>基本的な PC 操作スキルを保有されている方であればどなたでも受講頂けます。Java 等のプログラミング知識は、あれば尚可ですが、必須ではありません。</p> <p>以下の条件を満たす PC をお持ち頂きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Internet Explorer 8 以上がインストールされていること ・ Microsoft Office 2003 以上がインストールされていること ・ Wi-Fi 接続が可能であること
目標	<p>業務プロセスを、ケース、ステージ、ステップ、詳細プロセスの組合せで、階層的に整理できるようになる。</p> <p>業務プロセスを、フロー、データモデル、画面、システム連携、ビジネス・ルール等のモデルの組合せにより、プログラミング言語等の専門知識を有せずに、システム化できるようになる。</p>
価格（税込）	JISA 会員 6 万円 JISA 会員外 18 万円
開催人員	8 名以上 20 名まで
注意事項	特になし

UX 検討プロセスを活用した顧客体験創造ワークショップ

講師	齋藤 善寛 ・株式会社セカンドファクトリー シニア UX ストラテジスト ・文科省委託事業：「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」講師
日程	2月17日(火)～19日(木) 10時～18時
コース概要	デザイン思考／UX 検討プロセスを活用しユーザー体験およびビジネス面での価値プロセスをワークショップ形式により短時間で習得するコースです。UX パートはセカンドファクトリーで行われている価値創造プロセスを体験していただきます。ビジネスプロセスパートは匠 BusinessPlace 萩本氏とのコラボレーションによるものです。 【キーワード】 デザイン思考／UX／エスノグラフィー調査計画・実践／ユーザーインタビュー計画・実践／サービスデザイン／シナリオ手法／マインドマップ／バイアス崩しによるアイディエーション／人間中心設計／匠メソッド（価値主導型開発）（ステークホルダー分析と価値分析）／スマートフォン UI 設計
研修目次	UX 検討プロセスでビジネス価値をデザインする
対象	・主にソフトウェア開発の企画・開発に関して顧客窓口およびリーダー的な役割を求められている方。 ・顧客または自社製品などの上流工程で UX 検討プロセスを取り入れたいとお考えの方。 ・価値創造プロセスにご興味がある方。
前提知識／条件	創造的環境とプロセスでのワークショップに興味があるすべての方。
目標	ビジネス／ユーザー体験において価値を創造するプロセスの習得
価格（税込）	JISA 会員 10 万円 JISA 会員外 30 万円
開催人員	8 名以上 20 名まで
注意事項	・価値創造を目的とするワークショップを行いますので気軽な服装でご参加ください。 ・研修中のアイデア発表に PC 等によるプレゼンテーションを行うためプレゼンテーションソフトがインストールされたパソコンをご持参ください。 ・観察調査を行いますので、メモ帳／筆記用具／デジタルカメラをご準備ください。